

2018 ～日本のやきもの編～

出土品のみかた
知りたくない？



企画展

はっくつ
発掘!

かまくら たんていだん **探偵団**

2018年

6/16 (土) - **9/8** (土)

開館時間 / 10:00 → 16:00 (入館は15:30まで)

休館日 / 日曜・祝日

主催 / 鎌倉歴史文化交流館 (鎌倉市教育委員会)

観覧料 / 一般300 [210] 円 小・中学生100 [70] 円

※ [] 内は20名以上団体料金

※ 本料金で本館平常展示もご覧いただけます。

※ 鎌倉市内の小・中学生と、市内の65歳以上の方、または障がい者手帳等の交付を受けた方と付き添い1名は無料となりますので、受付に学生証・福寿手帳等を提示してください。



鎌倉駅西口から徒歩約7分

鎌倉歴史文化交流館

Kamakura Museum of History and Culture

鎌倉市扇ガ谷 1-5-1 TEL: 0467-73-8501

企画展 発掘！かまくら探偵団 2018

～日本のやきもの編～

どれが何焼きかな？
線でつないでみよう！！
答えはこの面のどこかにあるよ



Ochibi@Moyoco Anno/Cork



渥美焼

愛知県の渥美半島に分布した古窯で作られた焼き物です。陶器では甕や壺、鉢が主な製品で、源頼朝が東大寺を復興した際の瓦もここでつくられました。陶器は濃い灰色で表面に釉がかかりませんが、なかには素焼きに近い製品もあります。窯があった期間は短く、平安時代後期から鎌倉時代後期までの約200年間ですが、この時期すでに渥美半島から鎌倉や奈良へのネットワークがあったことがわかります。

瀬戸焼

愛知県瀬戸市で平安時代から作られている焼き物です。現在では、焼き物のことを「セトモノ」と呼ぶほど身近です。鎌倉時代の製品にはおろし皿や鉢、壺など簡素なものが中心ですが、青磁や白磁など中国から輸入された磁器をまねた品々も多くあり、多様な形がみられます。また、美しい文様が刻まれているものもあります。瀬戸焼は鎌倉では常滑焼について多く出土し、すぐれた作品は中国製品の代用として、また仏器や祭器として使われたのかも知れません。

常滑焼

愛知県の知多半島内で作られた焼き物で、酸化によって赤茶けた色味が特徴です。生産地は常滑窯といい、瀬戸焼・信楽焼・備前焼・越前焼・丹波焼と並ぶ、中世から現在まで続く日本六古窯の一つです。常滑市を中心にして、平安時代後期には約3,000基もの窯があり、甕や壺、鉢、皿などが焼かれました。なかには大型の甕もあり、鎌倉では発掘調査によって鎌倉時代から室町時代にかけてのおびただしい量の製品が出土しています。

中世都市として発展した鎌倉では、全国からさまざまな物品がもたらされました。市内で日常的に行われている発掘調査でも、各地から運ばれた数多くの生活用品が出土しています。なかでも「焼き物」は、バラエティに富んだ種類をみることができるのが特徴です。

土を成形して釉を塗り、窯で焼成してつくる焼き物は、中国大陸からも大量に輸入されましたが、流通品としては日本産のものが多くを占めます。現在の愛知県や岡山県などでつくられた、渥美焼・常滑焼・瀬戸焼・備前焼といった焼き物が、はるばる鎌倉にもやってきたのです。

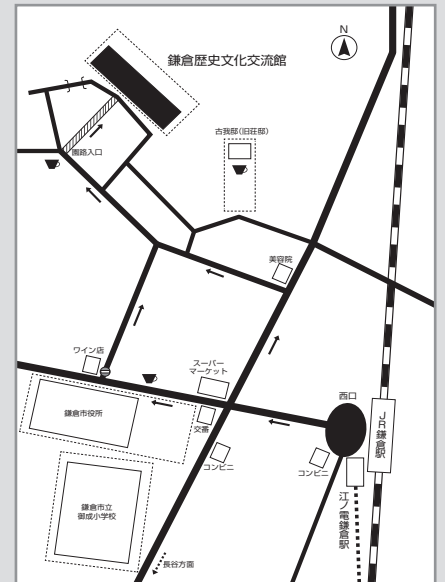
このような日本の焼き物は、興味や関心はあっても、どのように鑑賞してよいかわからない人も多いはず。本展では、鎌倉で発掘された出土品の焼き物を用いて、それらの鑑賞方法や中世考古学の基礎をやさしくひもときます。

学芸員による展示解説

会期中の毎週土曜日午前11時から（申込不要、聴講無料、要観覧料）

答え

①瀬戸焼 ②常滑焼 ③渥美焼



アクセス/JR 鎌倉駅・江ノ電鎌倉駅から徒歩約7分
※一般用の駐車場はございませんので、お車のご来館はご遠慮ください。
※障がい者用駐車場をご利用の方は事前にご連絡ください。

鎌倉歴史文化交流館

Kamakura Museum of History and Culture

〒248-0011 神奈川県鎌倉市扇ガ谷 1-5-1
TEL:0467-73-8501 FAX:0467-73-8545
rekibun@city.kamakura.kanagawa.jp
www.city.kamakura.kanagawa.jp/rekibun/koryukan.html